



土佐希望の家通信



<発行>重症心身障害児(者)施設 土佐希望の家 高知県南国市小籠107 TEL 088(863)2131/FAX 088(863)2133/
http://www.i-kochi.or.jp/hp/tosakibo/ Email:tosakibo@i-kochi.or.jp 発行責任者 門田 正坦 編集責任者 中屋 淳

HAPPY LIFE
家族の窓
2 病棟西
野村和人様



希望の家で子どもがお世話になる様になって早いもので8年が過ぎました。おかげ様で現在は元気に希望の家の分校に通学しています。

障害があっても毎日が楽しく過ごせる様に、学校の先生方と共に希望の家の職員の方も一緒にコンサートを開いて下さったり、又、紙芝居を読み聞かせに来て下さったりと将来の生活に向けて子どもの興味のある事を(特に音楽です)引き出して下さって生き生きとした高校生活を送っており、感謝しております。統合により、4人部屋になり、生活リズムも安定してきました。同室の先輩の大野健一さんにも可愛がってもらったりと毎日楽しく過ごしている様です。

後一年余りで分校を卒業しますが、今一番不安に思っているのはやはり卒業後の生活です。今後も出来るだけ心豊かに生活出来ればと心から願っています。職員の方には今以上にお世話になるとは思いますが、今後ともいつか宜しく願っています。



野村久美子

ボランティアさん紹介

ういず様



「土佐希望の家でコンサートをさせていた

演奏が終わると「ウー」と熱いどよめきが私達の方に押し寄せ、拍手が湧き上がりました。ピアノを弾かれる入所者の方と協演した時の事です。それは私達がカルポートで演奏するオーケストラのお客様の反応に負けていません。「ういず」のメンバーはこみ上げる物を押えながら後片付けをした事です。私たちが土佐希望の家のコンサートが大好きなのは、皆様の音楽を楽しめる姿。入所者の方でギター、ハーモニカ、リズム楽器と一緒に演奏する時の正確なリズムやハーモニー。自然に身についているのも感心させられます。又、一番素敵だと思ふ事は、働いているスタッフの方々の入所者に向ける慈しむ眼差し、暖かい言動、一体となつて作り出す雰囲気です。ここのコンサートは、私達にもつと技術を磨いて良い音楽を作らなくてはと思わせてくれます。今後も皆様と一緒に楽しいコンサートを目指したいと思っています。

ボランティアコンサートグループ
“ういず” 池本早苗

新年のご挨拶



理事長
門田正坦先生

平成21年最初の「土佐希望の家通信」の発行に際して、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は、企業の生産調整や労働者の解雇、株価の低迷など、経済状況が厳しさを増し、また、医師や看護師、介護職員の不足により医療や福祉の分野での不安がつのるなど、社会全体が重苦しい雰囲気のまま年を越し、新しい年を迎えることになりました。

土佐希望の家も、かつては医師が不足しまして、先の見えない深刻な時期もありましたが、理事長に就任して2年3か月、関係機関や関係の皆様方のご支援によりまして、危機的な状況からは抜け出すことができ、この春は、おかげさまで充実に向けて取り組むためのスタートラインに立つことができましたように思います。

今後は、重症心身障害児施設として、利用者に対して良質な医療と豊かな暮らしを提供できるように、そして家族の方に安心していただけるように、サービスの充実につとめなければならないと考えております。また、利用者に対してよりよいサービスを提供していくためにも、職員が希望を持つて、安心して働けるように、安定した雇用と勤務条件の確保に努めなければならないと考えています。

私の仕事

3病棟あざみ療育員 田中勝



「利用者さんに愛される職員を目指して」

希望の家に就職させていただいて18年の歳月が過ぎようとしています。就職した当時は、障害を持った人達にどう関わっていけばいいのか?どうすれば喜んでいただけるのか分からず、戸惑うことが多かった事を思い出します。

今の福祉現場は、制度も色々と変わって大変ですが、利用者さんが楽しく、喜んでもらえるように各棟の療育と看護が協力しチームとなつて力を合わせ日々の生活や充実した取り組みを支援させていただきたいと思っています。

以前私は、ある利用者さんにこんな事を言われたことがあります。「田中さんは僕達のできない身の回りの事や食事介助、排泄介助などをしてお金をもらいううがやきね、慌てんと丁寧に楽しくやってよ。」その言葉に私は、自分の行っている介助は利用者さんの立場に立った介助じゃなく、職員主体の介助をしていたんだと反省しました。

現在の福祉サービスは措置から契約に移行し、利用者さんにサービスを買ってもらっている時代です。利用者さんの立場に立つて行動でき、利用者さんに愛され、信頼される職員を目指し頑張っていきたいと思っています。

今は、国において障害児支援の見直しが検討されている時期ですし、世情が暗く、何かと不安な要素の多い社会でもありますが、先行きの見通しが難しいところがあります。そんな時代になりました。重度の障害のある方々を支えていくのは、社会の役割だと思っています。障害があっても安心して暮らしていける、そんな社会の一翼を担っていけるように、しっかりとした運営をしていきたいと思います。今年は、その基礎づくりの年と考えていますので、関係の皆様には、引き続きご支援をいただけたますよう、よろしくお願いを申し上げます。今年1年が、皆様方にとりましてよいお年でありますように祈念をいたしまして、ご挨拶といたします。

西村先生就任のご挨拶



西村直己先生

初めまして、西村直己です。平成21年1月より、常勤医として勤務することになりました。

24年間、循環器内科医として公立病院で勤務をしていました。家庭の事情で、24時間365日の拘束には耐えられなくなり、平成18年4月からは、パートの仕事をしていました。土佐希望の家には、平成20年4月から、週一回の勤務をしていましたが、勤務時間の便宜を図って頂き、週4日の勤務することになりました。

「厚意」

【寄付金・寄付物品】

松岡伸定様 山本登様 山本八重子様 田中博様 山下大輔様 北村真知子様 渡辺れい子様 吉井圭介様 小林豊様 浅利新吾様 濱口正浩様 南国教会様 高知友の会様 SDA高知キリスト教会様 安藤俊樹様 西岡愛子様 岩田英展様 大篠地区社会福祉協議会様 日本キリスト教団高知教会様 岡田浩太様 後免地区社会福祉協議会様 坂田二子様 若志会様 高知県園芸農業共同組合連合会様 溝渕勇様 高知農業高校様 山野上様 松原光明様 竹村真弓様 上岡奈美様

【ボランティア】

大篠婦人会様 南国教会様 末日聖徒イエスキリスト教会様 高知Jゴスペルクラブ様 ういず様 清和女子中高様 高知福祉専門学校様 十市婦人会様

ありがとうございました。
今後ともよろしくお願いいたします

☆ 編集後記 ☆

新年会を予定していましたが、1月は感染症が流行したことで、残念ながら中止になりました。この時期は油断できませんね。でも皆さんもうすっかり元気になりましたよ!今年もよろしく願っています。

これまでの病院では、患者さんの訴えを聞き、必要な検査をして、診断をしていたのですが、ここでは、訴えたくても訴えることのできない患者さんがほとんどです。患者さんが動くので検査が難しいということがあります。聴診器も、以前は良く聞こえるように、短めの聴診器を使用していたが、ここでは、患者さんに近づくことが難しいこともあり、長めの聴診器を購入しました。白衣を見て怖がる人も、自然に手が動く人もいますが、皆さん純粋な気持ちの人たちです。

若いときに土佐希望の家に入った子供さんも、今では大人になり、生活習慣病を持つ人も多くなつてきていると聞きますので、循環器専門医として、お役に立てるのではないかと思います。



1 病棟こすもす、新春の一場面

成人式 田村真恵さん・岡林玲加さん



真里恵さん、玲加さん成人おめでとうございます！

一月十二日(月)在宅支援センターホールにて、成人式が行われました。今年成人を迎えられたのは、一病棟の田村真里恵さんと在宅支援センターに通われている岡林玲加さんです。

真里恵さんは黒のスーツ姿でパリッと、玲加さんは艶やかな着物姿できめてきました。それぞれの生い立ちがスライドで紹介された後、在宅支援センターと一病棟職員の出し物がにぎやかに行われました。

最後の記念撮影ではカメラマンが多くて、主役の二人は、緊張？疲れ？が少しあったかもしれませんが、みんな楽しくお祝いすることができました。今日から大人の仲間入り、これからも元気で楽しく過ごしていきたいと思います！

作業療法



みなさん、作業療法ってご存知ですか？たぶん名前ぐらいは聞いたことがあるけど・・・って人が多いと思います。実は希望の家でも作業療法士が1名働いています。そこで今回は、作業療法について少し紹介させていただきます。

日本作業療法士協会の定義では、作業療法は「身体又は精神に障害のある者、またはそれが予測される者に対し、その主体的な活動の獲得を図るため、諸機能の回復、維持及び開発を促す作業活動を用いて治療・指導・援助を行うこと」とされています。

これだけでは何のことか分かりにくいと思いますので、ここからは私の持論を加え、希望の家にアレンジして説明します。作業活動とは『生きる』ことそのものを指していると考えます。そして、作業療法とは『生きる』ことのお手伝いをありとあらゆる方法で行っていくものだと思っています。

その方法や内容は、それぞれの方の『生きる』ことに添って行われるため、似ている場合は合っても誰一人同じではありません。スペースの関係で具体的な内容の紹介はできませんが、これからも、それぞれの方の『生きる』に向かい合っって作業療法を行っていきますので、よろしくお願いします。

作業療法士 久武昌樹

大黒杯ロードレース大会

選手宣誓！



十一月二十七日(木)、「タイムトライアル・ロードレース・イン土佐希望の家」が開催されました。今年は佐川町で毎年行われるロードレースが中止になったこともあり、利用者の大黒さんが発案して今回のロードレースが開催されることになりました。

希望の家の建物を一周するコースを車椅子、電動車いす、歩行器、歩行などそれぞれでタイムを計り、自分の予想タイムに一番近い人が優勝。タイムの発表をドキドキしながらみんなで待ちました。優勝はひまわりの陽子さんでした、おめでとう！



スタート！！



みんな並んで、
ようい！

クリスマス会



おなじみフライティ・ウィンド・アンサンブルの皆様の生演奏♪



1病棟こすもす職員からのお祝い太鼓



十二月十三日(土)、在宅で生活されている方達の「クリスマス会」を在宅支援センター多目的ホールで行いました。午前の部は職員によるオープニングの踊りから始まり、迫力のあるアンサンブルの生演奏にみんな大興奮。つづいて笑いをさそう職員のマジックショーの後は、お待ちかねの料理実演をみせてもらい、皿鉢料理をいただきながら談笑したりしてくつろぎました。

午後の部は大きな絵本を読みながらはじまり、ハンドベルそして「出し物」は「サンタのお家はどこ？」で、仮装した職員の劇を見て大笑いでした。サンタからはプレゼントと帰りににはケーキをもらって大満足の一日でした。

今年は、十八家族四十五名の方達が参加され、また創設者の山崎勲様様子様ご夫妻も参加され、親交を深められていました。今回も以下のボランティアの方達、フライティ・ウィンド・アンサンブル三十名余り、料理組合の田中様はじめ七名、名産センター刈谷様他多数のカンパでのクリスマスケーキなど、多くの善意に支えられました。



サンタさんからクリスマスプレゼントが皆さんに配られました！



優勝の商品はなんでしょう？



ちょっぴりいいね

3病棟西療育員 田村ゆかり

食事介助をしていた時、手元がくるって「カラン」とスプーンを落としてしまいました。すると、すぐ横山和美さんが「もうどうしよるがー」と笑いながら寄って来て、車椅子に乗ったまま、身体を曲げ、手をいっぱい伸ばし、何度か転がるスプーンを拾い上げ、さっさとスプーンを持って行きました。

しばらくして「ハイ！」とさっきのスプーンを渡してくれました。流しで洗ったタオルでキュッキュと拭き、ピッカピカのスプーンでした。本当に顔が写る位、ピッカピカでした。やさしい心づかいにありがと、嬉しくなりました。



職員紹介(家政)



タオルもたくさん洗濯物になります。



センター職員も絵本を読んだり、空を飛んだり大忙し、とても楽しい一日でした☆



家政の仕事は、掃除、洗濯、つくろい物等、出来ない物はないくらい希望の家の縁の下力持ちと自負しています。第一と第二が統合して2階の掃除に入るようになって利用者の方と触れあう事が多くなり、「オハヨウ」「今日はどうです？」「天気はいいですよ」とつい声を掛けたりします。返事は無いですが何か感じる事が嬉しくなり、そんな時、掃除にも力が入ります。保護者の方とも挨拶をし、コミュニケーションをとっています。

まず朝、事務所で朝礼があり、昨夜の出来事と今日のスケジュール等の話があります。その後2班に分かれて2階の掃除と食堂、医局、当直室、トイレ等の掃除。利用者のタオル、オシメ等の洗濯物等をしします。

一日中洗濯機、乾燥機は回りっぱなしで機械に休みは有りません。3時半頃にワイクセンター白ゆりからバスタオルや衣服等沢山帰ってきます。病棟ごとに個人別に服を分けてカゴに入れて決められた時間までに運搬していきます。

病棟の職員の方もよく家政にタオル、オシメ等を取りに来てくれます。男性のいない家政は、男性が来るとつい声をかけ返事に戸惑う職員の人がいます。ごめんね、オバサンばかりで、つい気軽に話をして手を止めたりします(悪気は有りません)。時には取りに来た物以外も持つて帰ってくれる？という押し付けたりもします、でも皆快く引き受けてくれます。

これからも縁の下の力持ちとして利用者の方、職員の方々の要望に応えていけるように努力します。

家政主任 大崎都子